

第301回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日時 平成26年5月13日(火) 11:50～13:00
2. 場所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] K-mix おひるま協同組合
[放送日時] 平成26年4月17日(木) 11:30～14:55
[出演者] 南真世・日下純
4. 出席者 [委員] 委員長 出口泰規 副委員長 谷川真美 委員 山本りさ
委員 木宮敬信 委員 小野晃司
[会社] 代表取締役社長 祐嶋繁一
放送本部長兼編成制作部長 久保田克敏
編成制作部副部長 寺田和史

5. 事務局報告

- 2013年度決算について
- AM局のFM波活用計画について
- 静岡県ラジオ聴取率共同調査の件

6. 番組審議

[対象番組] K-mix おひるま協同組合

[放送日時] 平成26年4月17日(木) 11:30～14:55

[番組内容] 一日の中で“その人らしさ”がイチバン発揮される“おひるま時間”。南真世、日下純の2人と、思い思いの時間を過ごすリスナーが“ラジオの架け橋”で通い合い、「あーだ、こーだ」の井戸端会議、それが「おひるま協同組合」。“ルールは作らない”がこの協同組合のお約束。音楽もトークもたっぷりゆっくりお届けします。

[聴取・合評での主な意見]

小野委員 少しダラダラしているところもあるが、テーマをコンテンツにし、2人のトークでリラックスしながら聴いてもらうという雰囲気はよく出ている。2人とも声は聴き易い。メッセージの処理能力も高いし、聴き手をよく意識している。

山本委員 前回審議した時よりも2人の息が合ってきている。主婦層をターゲットにしているというのがよくわかる。個人的にジャズが好みだということもあるがBGMが聴き易くてよい。2人のリスナーへの反応の仕方がリスナーにやさしい。「メッセージを送ってよかった」と思わせる対応

の仕方だ。「終活」のコーナーで、「お別れの会」を取り上げていたが、この番組のメイン・リスナーにとっては、必要のない情報ではないか。「じじばばにおはなをおくろ組」のコーナーは、実際には難しいのだと思うが、お孫さん自身の声でメッセージを紹介できたらなおよい。

木宮委員

2人のやり取りがスムーズでバランスもよい。昼間に軽く聴けるのがよい。リスナーからメッセージを募集するだけでなく、番組からもっとメッセージや情報を出した方がよい。今回の場合だったら「1000円のできることを番組からの情報として紹介するなど方法がある。番組途中から「子供がプレゼントしてくれた1000円をどうするか」ということを肯定的に取り上げ、番組的に盛り上がっていたが、個人的には「子供が親に現金をプレゼントする」ということに違和感があった。「終活」のコーナーは違和感がある。このコーナーと祖父母に花をプレゼントするコーナーがそれほど時間を空けずに存在するというのはいかななものか。アイダ設計の「川柳」のコーナーは、あの程度のレベルの川柳しか来ないのであれば、もっとアレンジした番組内容にしないと、飽きがくる。

谷川副委員長

2人の掛け合いに清潔感があってよい。聴いていて心地よく、多くの人を受け入れやすい番組だと思う。ただ、番組構成的には一つのテーマで番組を進行するため、番組後半になると冗長な感じがする。どこでどう盛り上げ、メリハリをつけるのかを考えた方がよい。また、2人の本音や個性をもっと出しても大丈夫だと思う。

出口委員長

2人の息が合っている。以前と較べぎこちなさがなくなってきた。3時間30分を一つのテーマで追っていくというのは面白い。テーマによっておもしろい日とそうでない日が出てくると思うが、そういうリスクを抱え、番組に取り組むというのは勇気がいることだ。あるリスナーのメッセージに対し、他のリスナーがアドバイスしたりしていて、TWO-WAYが成り立っている。「協同組合」というタイトルは、こういうことを言っているのだと思った。

会社サイド

前回（第300回）では、パーソナリティのニュース読みの成長に対して評価をいただきました。より一層、ニュース解説などの力量をアップさせるためにも、いただいたご意見は番組作りの参考とさせていただきます。今回（第301回）ご指摘いただきました点につきましても、今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 平成 26 年 6 月 10 日（火） 11:50～13:30 を予定

以上

番組審議会委員長

出口 泰 規